

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和3年度 学校評価重点計画

小松市立向本折小学校
学校長 川村 聡子

1. 目指す児童像

「主体的に学校生活に取り組む子の育成」「下学年に憧れをもたれる上学年の育成」

2. 目標

教育理念である「笑顔あふれる向本折っ子の育成」を基盤として、児童一人一人がめあてをもち、教育活動に生き生きと主体的に取り組むことで、あたたかな活気あふれる学校を目指す。また、その姿が下学年の憧れとなり、下学年の児童にもしっかりと受け継がれるような校風を定着させる。

(1) 学校の現状と課題

本校では、清掃活動や児童会活動等、教育活動の多くの場面で縦割りの異学年集団による活動を実施している。上学年が主体的に活動を運営し、下学年児童に対しては優しく教え接するなど、この活動を通して、下学年は上学年に憧れの念をもつとともに上学年になったときにこれを手本として活躍するという校風がある。しかし、上学年にやや主体的に取り組む姿勢や規範意識に欠ける行動、言葉遣いに課題が見られる。高学年を中心とした上学年児童の育成や本校のよき校風をしっかりと継承することに努める。

(2) 目標達成のための具体的な手立て

【授業づくり（知）】

- ・カリキュラムマネジメントした学力向上ロードマップの活用や目標達成する授業を目指し、聴き合い、学び合う主体的であたたかな集団づくりで学力向上を図る。

【道徳教育（徳）】

- ・重点目標を「親切・思いやり」とし、やさしい心とこれまで育成してきた「善悪の判断・自主自律」の強い心を継続して育成する。

【健やかな体（体）】

- ・体力づくり（1校1プラン）「早寝・早起き・朝ごはん・メディア使用の時短」の推進で強い体・健やかな体を育成する。

【あたたかな集団づくり（自己肯定感の向上）】

- ・特別活動や奉仕活動、SDGSの取組等を通して、自他を大切にし、自己肯定感を高め、相手を思いやる行動ができるあたたかな集団を作る。
- ・縦割り活動や様々な異学年交流を計画的に位置づけ、上学年の活躍の場を設ける。

【家庭・地域社会との連携・小中連携（社会に開かれた教育課程）】

- ・家庭・地域社会との連携を生活科や総合的な学習の時間を中心に推進し、郷土愛を育成する。
- ・幼保小中連携を通して、自治活動の推進やスムーズな接続を目指す。